

バルザックは、十九世紀前半のフランスにおける人間の情念と社会の裏面のすべてを描きだそうとした、百科全書的な巨人である。恋愛についても、その喜びと悲哀と苦悩をふくめ、あらゆる局面を描きだしたが、その代表的な作品から編んだのがこのシリーズである。

第一巻と第三巻の中篇集を読むだけで、求愛、求婚、あやまった結婚、犠牲的な愛情、別れ、裏切りと復讐、異常な母性愛等々、愛の諸相があますことなく描きだされている。さらに、他の巻に収めた書簡体小説『二人の若妻の手記』、『老嬢』、『三十女』などの長編小説にいたると、愛の情念のドラマは、性格のちがいがもたらす運命劇、王政復古期の社会を映し出す求婚争い、母娘の深刻な葛藤がからむ想像を超えた波瀾万丈の大ロマンが、深刻な筋書で展開さ

れている。恋愛小説とはいえ、ほとんどの物語の底流に社会の葛藤と金のテーマが絡んで、類を見ない恋愛小説になっているというのもバルザックならではで、情念の愛憎劇を通して十九世紀フランスの社会が浮かび上がってくる。

バルザックは、ゴシック風の小説を書いていた初期の時代では夢や予言といった世界にもなじんでいたが、その様相はさまざまな形で『人間喜劇』にも生かされている。夢を通して革命期のフランスを幻視する「ふたつの夢」や、ほとんど推理小説のプロットで夢遊病者の生息が描かれた「コルネリウス卿」を収めたのも本シリーズの特徴であり、こうした作品群を通してバルザックがいかに多様な世界を創造したかを味わい、バルザックを読む楽しみと興奮に浸っていたきたい。



① 偽りの愛人

ソ一の舞踏会……………私市保彦訳
二重の家庭……………澤田肇訳
偽りの愛人……………加藤尚宏訳
捨てられた女……………博多かおる訳

戦友であり、命の恩人であるラジンスキ伯爵に強い恩義を感じ、仕えているタデ・パス。互いに好意を抱いてしまふことを恐れ、伯爵夫人を遠ざけるため、サーカスの女芸人に恋をしているとでつちあげるが……。表題作を始め、信心に凝り固まった妻によつて摩耗し、町で見かけた貧しい少女と家庭を築くようになる男の物語、「二重の家庭」など、結婚によつて狂わされていく女の悲劇を描いた四篇。

② 二人の若妻の手記

二人の若妻の手記……………芳川泰久訳
女性研究……………加藤尚宏訳

恋を夢見、ともに少女時代を過ごした修道院を去ることとなつたルイーズとルネ。南仏で堅実な結婚するルネに対し、ルイーズはパリで、スベイン人の家庭教師と恋愛結婚をする。二人の女性の正反対の人生が丁寧な描かれる、書簡文学を代表する表題作のほか、堅物のリストメール夫人のもとに誤つてラスティニャックが書いた恋文届けられたことで起きた騒動を描く「女性研究」の、手紙を巡る二篇。

③ マラーナの女たち

オノリーヌ……………加藤尚宏訳
シヤペール大佐……………大下祥枝訳
マラーナの女たち……………私市保彦訳
フィルミアーニ夫人……………奥田恭士訳
徵募兵……………東辰之介訳

十三世紀から続く、娼婦の家系の末裔であるジュアナの将来を憂うその母親ラ・マラーナは人一倍注意を払い、娘の貞操を守っていた。しかし、モンテフィオーレ侯爵が現れたことで、ジュアナは数奇な人生を歩むことになる……。血に呪縛された女の生き方を描いた表題作ほか、ある日突如失踪した妻オノリーヌを追ひ、奇妙な形で彼女を保護しつづけた司法官オクターブの愛を描く「オノリーヌ」など五篇。

④ 老嬢

老嬢……………私市保彦訳
ボエームの王……………片桐祐訳
コルネリウス卿……………私市保彦訳
ふたつの夢……………私市保彦訳

アランソンの町に、財産を持ち一大サロンを築くコルモン嬢をめぐり、婿の座争いが巻き起こる。老嬢をいとするのは、文無しの老貴族のヴァロワ騎士か、中産階級のデュ・ブスキエか、それとも誠実だが貧しい若者アナターズか？ なかなか進まぬ利権争いは、この町に退役軍人のトレヴィール子爵がやってくることで、急展開を見せる……。表題作ほか、驚愕の結末を迎える、商人コルネリウス卿の宝石泥棒探しの物語など四編。

⑤ 三十女

三十女……………芳川泰久訳
家庭の平和……………佐野栄一訳

うら若き娘ジュリーは、恋に盲目になるあまり、懸念する父親を振り切つて、無能で上辺だけのデグルモン大佐と結婚した。次第に夫の本性に気づき、絶望しきつていた彼女だが、心の底では本当の愛を求めていた。二人の男と出会い、恋をするが、不幸な結末を迎える。さらに自らの過去の因果で、その愛娘に不幸がふりかかるのを防ごうとするが……。六部構成で、波乱万丈の女の人生が壮大に語られる表題作を含む二篇。